

科目名	高次脳機能障害治療学			授業の種類	講義	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 後期
【授業の目的・ねらい】 高次脳機能障害の捉え方や評価と評価法、脳画像の見かた、介入方法を学び高次脳機能障害に関する知識・技術を身につける。								
【実務者経験】 作業療法士として順心リハビリテーション病院に勤務、身体障害領域の幅広いリハビリテーションに従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 作業療法士として必要な高次脳機能障害の知識・技術を教科書を交えて学習していく。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 高次脳機能障害のそれぞれの症状について説明ができる。各評価の意義を説明でき、評価に必要な知識・技術を身につける。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	オリエンテーション、高次脳機能障害とは						教科書、資料、ノート	
2	高次脳機能障害の評価の概要						教科書、資料、ノート	
3	注意機能障害						教科書、資料、ノート	
4	注意機能障害						教科書、資料、ノート	
5	注意機能障害						教科書、資料、ノート	
6	半側空間無視						教科書、資料、ノート	
7	認知の障害（失認、構成障害、着衣障害）						教科書、資料、ノート	
8	言語障害						教科書、資料、ノート	
9	記憶障害						教科書、資料、ノート	
10	記憶障害						教科書、資料、ノート	
11	行為・行動障害（失行）						教科書、資料、ノート	
12	行為・行動障害（失行）						教科書、資料、ノート	
13	遂行機能障害						教科書、資料、ノート	
14	遂行機能障害						教科書、資料、ノート	
15	感情障害、社会的行動障害						教科書、資料、ノート	
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版 能登真一								
【準備学習・時間外学習】 それぞれの障害の病巣や特徴を把握し、検査道具を使用出来るように復習を行う。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は課題の評価を10点、小テストを20点、定期筆記試験を70点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。								